

令和7年度

加茂名南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分で考え、判断し、行動する児童を育成する授業の実践

校長

学力向上推進員

○次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

外部講師や管理職、教員相互による授業参観、校内研修等、さまざまな機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が育ち、集中して学習に取り組んでいる。 ●当該学年で身に付けておくべき知識・技能が十分定着しておらず、学力の二極化が見られる。学習したことを、生活に生かす力の育成が課題である。 ●語彙数が少なく、文章を読み取ることが苦手である。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・知識・技能の習得のために、適切に学習用具（ノート・ものさし・タブレット端末など）が活用できる。 ・読書に親しみ、文章を正確に読み取ることができる。	・個に合わせて、ドリルやプリント、タブレット端末を活用して、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くようにする。 ・定期的に確認テストを行うなど、反復練習を行い、学習の定着を図る。 ・朝の活動などの隙間時間を活用し、音読・読書タイムを実施し、基礎学力の定着を図る。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ペア・グループ学習での話し合いでは、自分の考えを発言することができる児童が増えてきた。 ●自分の考えを分かりやすく表現したり、まとめたりすることが苦手である。 ●全体の場での発表に苦手意識がある児童がいる。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・目的に応じて、自分の考えと比較しながら話を聞いたり、自分の考えをまとめたりすることができる。 ・一人一人が自信をもって、自分の考えを表現することができる。	・ペア・グループ活動、ホワイトボードやタブレットを活用して、伝え合う学習を取り入れ、考えを交流できるような場面や時間を確保する。 ・児童同士の信頼関係づくり、認め合える仲間づくりを行い、表現しやすい環境作りに努める。 ・児童が自信をもって表現できるように、ヒントを出したり、言葉を補ったりするなど、手立てを講じる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、課題に対して、最後まであきらめずに取り組む児童が多い。 ●苦手なことやつまずきがあると最後まで取り組むことを諦めたり、受け身になったりする児童がいる。	・一人一人が毎時間の学習に目標を持ち、積極的に授業に参加している。 ・「次はこんなことを学びたい」と意欲を持ち、授業や家庭学習に取り組む。	・研修を行い、教員の授業力の向上を図り、「分かった・できた」と思える授業の充実を図る。 ・毎時間のめあての明確化、学習の流れを示すなど、見通しがもてるようにする。 ・家庭学習の手引きや進め方を活用し、家庭と連携しながら家庭学習・自主勉強・音読活動の習慣化を図る。			